

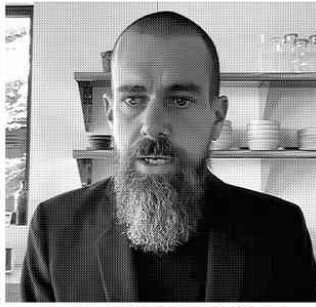
# SNSから仮想通貨へ

## ドーシー氏、ツイッターCEO退任

### 「表現の自由」巡り風圧

【ラスベガス＝白石武志】米ツイッターの創業者、ジャック・ドーシー最高経営責任者（CEO）が29日付で退任した。「表現の自由」など巡って社会の風圧が強まり、アクティビスト（物言、株主）からは株価上昇への圧力が続くなか、SNS（交流サイト）の経営の第一線を退く。ドーシー氏は今後、強い関心を寄せる暗号資産（仮想通貨）に軸足を移す。

「会社は創業者の影響を受ける最大8700万人のフォロワーを抱えてや指示を受けずに自立する個人情報不正流用事（当時）をツイッター上から永久追放した。民主に宛てたメッセージのなS企業がフェイクニュースを放置しているとの批判を機軸としてきたこと」が重要だ。ドーシー氏は20日、全従業員に宛てたメッセージで、2015年のCEOから2015年のCEOまで2015年のCEOとしての責任を機軸としてきたことと打ち明けた。



ドーシー氏の関心は仮想通貨「ビットコイン」にある＝ロイター

氏は21年1月、暴力を扇動する投稿が規約に違反して反発を招いた。ドーシー氏は従業員宛てのメッセージの中で「私の決断であり、私自身の問題である」とを皆さんに知ってほしいと思つたと強調した。「自分のエゴよりも会社を選ぶ創業者は多くない」とも述べ、政治的な板挟みの中で対外的な説明に時間を割かれる近年の状況が自らの望むところではなかったことを示唆した。

ドーシー氏は米IT（情報技術）業界で早熟の天才として知られる。幼少期からコンピュータへの関心を示し、10代でタクシーや救急車の運行制御ソフトを開発し

た。大学生の頃にはすでにツイッターの原型となる技術を開発し、後に知り合った友人らと29歳だった06年にツイッターを共同で創業した。

ドーシー氏はツイッターの創業を通じて、インターネットの特性である「オープンで非中央集権」を志向するSNSの構築

を目指してきた。同氏の関心は今、同じく分散型の技術的思想を基盤とする仮想通貨「ビットコイン」にある。7月、仮想通貨の採掘作業を分散させる通貨関連のイベントに登壇した際、同氏はビットコインについて「私が子どもだったころのインターネットを思い出させる」と述べた。

ビットコインには、マインニング（採掘）と呼ばれる電力が環境負荷をもたらす課題がある。10月に米決済大手スクエアを通じて電力効率の高い半導体の他の起業家に相通じ

2020年3月	米エリオットがドーシー氏の解任を要求。取締役を受け入れ和解
11月	24時間で投稿が消える機能を日本などで導入（21年8月廃止）
21年2月	23年の売上高を20年比約2倍に引き上げる3カ年の経営計画を発表
5月	・音声のライブ配信機能を本格展開 ・有料のニュース配信サービスを手掛ける米新興企業の買収を発表
9月	ユーザー同士が送金できる「投げ銭」機能を世界展開

